

ホータンの地理的概略

ホータン県の南は7000メートル級のコンロン山脈に、さらにチベット自治区と接して、北はタクラマカン砂漠に囲まれたオアシスである。面積は4・2万平方キロだが、多くの人に住むオアシス面積は589平方キロだけであり、95%が山地である。人口は約26万人、自治区首都のウルムチから1700キロ離れている。コンロン山脈の雪解け水が流れるユルンカシュとカラカシュの2つの河にはさまれている。

- 1、 南部高山地帯。3500メートル以上。夏には牧場となる。
- 2、 山麓地帯。1500－3500メートル。カラカシュ河などの浸食などで形成された段丘地帯。冬の牧場。ランル郷、カシタシ郷。
- 3、 扇状地帯。1300－1500メートル。ホータン市など中心部の農業区がこれに属する。トサラ郷、ブザク郷、ライカ郷、バフチ鎮、ハネレック郷、インアイレック郷。
- 4、 北部沖積平原。1300メートル以下。インアワティ郷、タワクレイ郷、シジクレイ郷、イスラムアワティ郷。

ホータン地区は和田市、ホータン県、墨玉県（カラカシュ）、皮山県（グマ）、洛浦県（ロプ）、策勒県（チラ）、于田県（ケリヤ）、民豊県（ニヤ）の行政区に分かれる。ホータン地区の人口は約161万人（1999年）、97%がウイグル人である。ホータン県の行政は12の郷、鎮に分かれる。

ブザク郷は人口約2万3000人、5000世帯、ほとんどが農業で綿花、小麦、とうもろこし、果物、牧畜、などである。ホータン県の気候は、高山地帯から砂漠地帯まで多様である。人が比較的集中している扇状地帯、すなわちオアシスに関していうと、内陸性気候で1年、1日を通じて寒暖の差が大きい。春は風が吹きあれ、夏は乾燥、秋は涼しくなるのが早い、冬には雪は少なく、寒さもそれほどではない。年の降水量は30～50ミリ、気温は8月(平均気温25℃)に最高気温38℃になり、1月(平均気温-3℃)は最低気温-12℃になることもある。産業は農牧業、絨毯、食品加工業などである。新疆の1999年の農民平均年収では最高のウルムチ3151元に対し、ホータン地区は723元と最低である。新疆全体でも農業収入は低下している。